



ちい あか 小さな赤いめんどり

アトリー作 こ いけ 小池アミイゴ絵 じんぐうてる お 神宮輝夫訳 しゃ こぐま社

小さな家^{ちい いえ}に、ひとりのおばあさんがすんでいました。おばあさんは、びんぼうにもまけず、りっぱにくらしていましたが、ときどき、はなしあいてがほしくなるのでした。あるばんのこと、おばあさんのところに、小さな赤いめんどりがやってきました。おばあさんは、よろこんでめんどりをむかえいれ、いそいそとせわをやきました。ところが、ナイフをにぎった男^{おとこ}が、めんどりをさがして、家をたずねてきたのです。ふしぎな力^{ちから}をもっためんどりと、おばあさんのおはなし。

